

彩遊祭楽

三谷市民文化振興財団ニュース



福井の郷土料理

さばぬた

若狭湾の海産物は全国でも「若狭もの」として珍重され、サバは脂がのり味が良い。そのサバを酢でしめて、ねぎやからし、味噌などと和えたものを「さばぬた」と言う。ねぎ、にら、しょうが、みょうが、春菊などの香味野菜を合わせることが多く、伝承野菜でもある谷田部ネギとの組み合わせは人気がある。合わせる具材は、香味野菜だけでなく、こんにゃく、いりごまなど多種にわたる。



麩の辛し和え

秋から新年にかけて行われる浄土真宗各派の年中最大行事を報恩講といい、県内では「ほんこさん」や「おこ(う)さま」と呼ばれる。「麩の辛し和え」はその報恩講に集まった人々に振る舞う精進料理の一つで、調味料に和辛子の一種である「からし種」でつくった「地からし」を使うことで、香ばしい芳香の独特な香りとなる。この料理によく利用される角麩は越前市で製造され、麩の一部が赤で着色されており料理に彩りを添える。



はまなみそ

米麴から甘酒をつくり、そこへ豆麴や醤油、塩漬けなすや、しその実、しょうがなどを加えてつくる冬限定の郷土料理。甘酒のほんのりした甘さに、麴の旨味や醤油の香ばしさなどが加わり、食欲をそそる美味しさである。江戸時代に徳川家康が「浜なっとう」を好み、その二男の結城秀康が関ヶ原合戦後に越前へ浜松の食文化を持ち込み、福井県の風土に合った越冬食へ変化したものといわれている。



とびつき団子

旧三国町や旧芦原町、旧金津町の竹田川沿いの農家に伝わる伝統菓子。昔からお盆になると各家庭でお供え物として「とびつき団子」をつくる習慣があり、子どもからお年寄りまで幅広く好まれた。一見おはぎのようだが、歯切れをよくするために、もち米にうるち米を1割ほど混ぜてつくった餅に、しっかりと形を残したササゲをまぶしてあり、素朴で甘さを抑えた味が好まれている。



出典:農林水産省Webサイト <https://www.maff.go.jp/>

一般財団法人 三谷市民文化振興財団

〒910-0857 福井県福井市豊島1-3-1 三谷ビル
TEL: 0776-20-3188 FAX: 0776-20-3306

2023年6月発行・このニュースに関するお問い合わせは、☎03-6451-0536 ホービスト(株)まで

ふくいの無形文化財

布久漏神社 表児の米 9月14日

秋の実りに感謝する独特の神事で、地元の氏子たちが力強く床を踏みしめる「おたしより」や、玄米の入った臼を数人で交互に杵でつく「米搗ち(こめかち)」などを披露し、水の恵みや五穀豊穡などへ感謝の意を表す。米は清水で研ぎセイロで蒸して神前に供え、残った米は団子状に丸めて参拝者たちに配るが、この団子が「表児の米」と呼ばれる。「表児」とは、感謝の気持ちを表す「表志」が語源とも言われている。(坂井市)



ふるさとめぐり 第15回 坂井市

伝説

…人柱お静…



天正4年寛平元年(1576年)、柴田勝豊が丸岡城を築城の際、天守閣の石垣が何度積んでも崩れてしまうため人柱を入れることになった。自分の子を侍にしてもらうことを条件に、お静という片目の女性が人柱になり、天守閣は無事に完成した。

ところが勝豊は約束を守らずお静の子を侍にしなかったため、お静の霊はこれを恨み毎年、年に一度の藻刈の季節になると春雨を降らせ堀には水があふれるようになった。人々は「お静の涙雨」と呼び小さな墓を建て、霊をなぐさめるようになったという。「ほりの藻刈り降るこの雨は、いとお静の血の涙」という俗謡が伝えられている。

丸岡城に行く

丸岡城 ■坂井市丸岡町霞町1-59

句牌

月さびよ
明智が妻の
咄しせむ

松尾芭蕉



「寂しい月明りのもとですが、明智光秀の妻の昔話をしてあげましょう」。伊勢の遷宮参詣をした際、貧しいにもかかわらず温かいもてなししてくれた夫婦に感激した芭蕉は、光秀の妻が髪を売ってお金を作り、お客様をもてなしたことを引き合いに出し、感謝したという。

句碑に会いに行く

称念寺 ■住所: 坂井市丸岡町長崎19-17

一般財団法人 三谷市民文化振興財団 助成団体募集!!

募集期間：2023年10月1日～11月30日

一般財団法人 三谷市民文化振興財団は、福井県内におけるボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の振興を通じて「こころ豊かな地域づくり、社会づくり」に貢献することを目的として、2023年度の助成団体の募集を行います。

募集の要領

- 助成の対象分野
- ・ボランティア活動
 - ・スポーツ活動
 - ・市民文化活動

●助成の対象となる団体

■営利を目的としない次の条件を満たす団体

1. 福井県内で活動している団体
2. 会員が5名以上の団体
3. 設立1年を経過している団体
(2022年10月以前に設立したもの)
4. 特定の資格・経歴等の条件を必要としない、
個人で加入できる民間の団体

●助成金額 1件あたり約20～50万円

●応募方法 所定の申請書をホームページからの電子申請、郵送およびご持参ください。

●結果連絡 選考委員会による審査で決定し、2023年12月末までに団体代表宛に連絡いたします。
(採否の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねます。)

●助成金贈呈時期 2024年1月中旬

上記より詳しい募集要領がございます。
以下にお問い合わせをしてから、ご応募ください。

まずはお問い合わせを!

★ホームページから募集要領を読む

三谷市民文化振興財団のホームページへアクセス
<http://www.mitene.or.jp/m-zaidan/promo.html>
または検索エンジンで!

三谷市民文化振興財団

検索

★お電話で募集要領を取り寄せる

☎ 0776-20-3188 (一財) 三谷市民文化振興財団



■連絡先 ボランティアガイドきたまえ三国 0776-82-0947

県下一の大河「九頭竜川」が日本海に注ぎ込む場所に位置する三国は、古くから水運で栄えた港町。 「ボランティアガイドきたまえ三国」は、戦災、震災を免れ今も残る情緒あふれる町並みや建物を紹介することで、街づくりの推進および地域の発展に寄与することを目的として設立され30周年を迎えた。 観光客に対するボランティアガイドだけでなく、旧岸名家、旧森田銀行といった公共施設の管理や、三国地域の観光地および郷土歴史に関する研修、小中学校への語り部訪問などの広報活動も行っている。 三国の歴史、文学、自然などを学びたい方、観光客などいろいろな方と交流を楽しみたい方は是非お問い合わせを。

三谷市民文化振興財団の助成団体



■連絡先 おたまじゃくしミュージッククラブ 0776-39-0465

ミュージックケアとは、音楽の特性を生かして、対象者の心身に快い刺激を与え、対人的な関係の質を向上させ、情緒の回復や安定を促す援助活動。さらに音楽が流れている時だけではなく、流れていない時も大切で、待つこと、自然反応、問の取り方などを感覚の中で自然に学ぶことができる。 「子どもたちの可能性は無限で、ミュージックケアを通して、今だけでなく将来どのような大人に成長していくか一緒に寄り添っていきたい」と語る同クラブは、障害のある子どもたちのコミュニケーション能力や表現力、臨機応変に対応する能力を養うことを目的として、月に2～3回、福井市南部、坂井市南部地域で日々活動を続けており、最近ではミュージックケアを学びたいという人も増えてきたという。

坂井市

古くから水運で栄えた港町としての三国町の魅力を発信する 「ボランティアガイド きたまえ三国」

漢詩や和歌の吟詠に合わせて剣を振り、扇をかざして舞い踊る。しなやかな仕草かと思えば一転、力強く足を踏み音を響かせる剣詩舞。中嶋将之さんは父親が創流した宗生流剣詩舞道の継ぎ手として、後進指導にあたっている。宗生流に入門したのは中嶋さんが中学生の時。「父の姿を見ていましたし加わることに抵抗はありませんでした。他の生徒よりも指導は厳しかったです」と振り返る。 現在は福井市にある総本部道場で幼児から年輩の80名を超える生徒たちとほぼ毎日稽古に励む。年に一度の発表会のほか全国大会に向けたコンテストにも数多く出場し、生徒たちも華やかな結果を残している。また少子化であっても子どもたちの参加が多いのは「子ども園で体験教室しているんです。見て触れて踊ってもらわないと始まらない。剣や扇を触りたいという好奇心も刺激してね(笑)」と熱心だ。かつこうよさだけではなく「剣詩舞は漢詩をもとにして舞うもの。作者の考えや想いを体を使って表現しよう、怒りや悲しさ、感情で踊るようにと伝えていきます」。 伝統にこだわらず、時代に合わせた創作を行い観客にも好評を博している。地元の人



喜怒哀楽を体で表現
自分の中にある確固たる
理想とする型に近づけて舞う
中嶋将之

福井市

ミュージックケアを通して子どもたちの成長、発達を支援する 「おたまじゃくし ミュージッククラブ」



●なかしままさゆき/福井県に伝わる伝説や源義経など幅広く演じ、日本トップクラスの剣詩舞道家として活躍中。令和3年福井市文化奨励賞受賞。雅号は宗山。
毎回演目に合わせて衣装を制作する。「衣装を身に着け化粧をすると魂が入ります」。



凛々しい顔つきと振付で心情を表現する。